

aiameguyuu さんの体験記第 1 3 話です。

-----  
親友が心配して訪ねてきてくれた。

でも、元気な姿をみるとまた落ち込む。

同級生の赤ちゃんがいて、大きくなったから抱いてみて。という。

自分の子も抱いていないのに、抱いてもかわいいとも何とも思わない。

むしろ煩わしいとすら感じた。

この子は 3 人目の子。どうしてこんなに楽々と育児をして、自分の

したいこともこなしてるんだろう。

私にはどうしてまねできないんだろう。

死にたい。

死にたい。

母たちが散歩に出かけた時、台所の包丁を胸にあててみる。

少し押してみるが痛くもないのになかなか突き刺さらない。

愕然とした。死ぬのって難しい。

私は生きることもできなければ、死ぬこともできないんだ。

結局包丁を胸に当てるのは 2 回やった。

でも、これで突き刺して死に至るなんて、到底無理だと思った。

自殺者が増えているというが、ある意味この人たちは勇気があると思った。

それかよほど病に冒されているんだろう。

でないと実行できないと思った。

眠れないことを訴えるとマイスリーの量を増やされた。

薬が増えることには抵抗があるが、効果があつてか、少し寝つきがよくなった。

パジャマで一日暮らす私に父が、たまには着替えて散歩にでてみたら。

という。

こんな大変な思いをしてるのにのんきに散歩なんてできるか。と思った。

そしてだらだらと過ごす日は続く。

思い出したように母にどうしてじぶんだけこうなのかと愚痴をこぼす。

同じことの繰り返しを言うってしまうのだけど、吐き出さないと心がいっぱいになってしまう。

好きで病気になる人は誰もいない。世の中にはいろいろな病気にかかって苦しんでいる人がたくさんいる。

そのなかで、私は偶然にも心の病というのかかかってしまったのだと。

そしてこれは永久に治らない病気ではなくって、早くて半年、長くて 1 年くらいで

治療を続けていたら治るといふ。それだったら、今少し人生の休憩をしてもいいのではないかと。

確かに母の言うことも少しわかる気がする。

先生もいとも必ず治ると言ってくれた。

でも、じゃあ少しのんびりするか。という気には全くなれない。

焦りと絶望が私を襲う。

身の回りのことを構うのが面倒になって、入浴もしたくないし、顔も洗うのがたいがい。

結構おしゃれには気を使っていたころの自分が遠い昔のように思える。

(続く)